

詩篇 9、10 篇

「神の裁きは確実である」

9:1 私は心を尽くして【主】に感謝します。あなたの奇しいわざを余すことなく語り告げます。
9:2 私は、あなたを喜び、誇ります。いと高き方よ。あなたの御名をほめ歌います。 9:3 私の敵は退くとき、つまずき、あなたの前で、ついえ去ります。 9:4 あなたが私の正しい訴えを支持し、義の審判者として王座に着かれるからです。 9:5 あなたは国々をお叱りになり、悪者を滅ぼし、彼らの名を、とこしえに、消し去られました。 9:6 敵は、絶え果てて永遠の廢墟。あなたが根こぎにされた町々、その記憶さえ、消えうせました。 9:7 しかし、【主】はとこしえに御座に着き、さばきのためにご自身の王座を堅く立てられた。 9:8 主は義によって世界をさばき、公正をもって国民にさばきを行われる。 9:9 【主】はしいたげられた者のとりで、苦しみのときのとりで。 9:10 御名を知る者はあなたに拠り頼みます。【主】よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。 9:11 【主】にほめ歌を歌え、シオンに住まうその方に。国々の民にみわざを告げ知らせよ。 9:12 血に報いる方は、彼らを心に留め、貧しい者の叫びをお忘れにならない。 9:13 【主】よ。私をあわれんでください。私を憎む者から来る私の悩みを見てください。主は死の門から私を引き上げてくださる。 9:14 私は、あなたのすべての誉れを語り告げるために、シオンの娘の門で、あなたの救いに歓声をあげましょう。 9:15 国々はおのれの作った穴に陥り、おのれの隠した網に、わが足をとられる。 9:16 【主】はご自身を知らせ、さばきを行われた。悪者はおのれの手で作ったわなにかかった。ヒガヨン セラ 9:17 悪者どもは、よみに帰って行く。神を忘れたあらゆる国々も。 9:18 貧しい者は決して忘れられない。悩む者の望みは、いつまでもなくなならない。 9:19 【主】よ。立ち上がってください。人間が勝ち誇らないために。国々が御前で、さばかれるために。 9:20 【主】よ。彼らに恐れを起こさせてください。おのれが、ただ、人間にすぎないことを、国々に思い知らせてください。 セラ

10:1 【主】よ。なぜ、あなたは遠く離れてお立ちなのですか。苦しみのときに、なぜ、身を隠されるのですか。 10:2 悪者は高ぶって、悩む人に追い迫ります。彼らが、おのれの設けたたくらみにみずから捕らえられますように。 10:3 悪者はおのれの心の欲望を誇り、貪欲な者は、【主】をのろい、また、侮る。 10:4 悪者は高慢を顔に表して、神を尋ね求めない。その思いは「神はいない」の一言に尽きる。 10:5 彼の道はいつも栄え、あなたのさばきは高く、彼の目に、入らない。敵という敵を、彼は吹き飛ばす。 10:6 彼は心の中で言う。「私はゆるぐことがなく、代々にわたって、わざわいに会わない。」 10:7 彼の口は、のろいと欺きとしいたげに満ち、彼の舌の裏には害毒と悪意がある。 10:8 彼は村はずれの待ち伏せ場にすわり、隠れた所で、罪のない人を殺す。彼の目は不幸な人をねらっている。 10:9 彼は茂みの中の獅子のように隠れ場で待ち伏せている。彼は悩む人を捕らえようと待ち伏せる。悩む人を、その網にかけて捕らえてしまう。 10:10 不幸な人は、強い者によって砕かれ、うずくまり、倒れる。 10:11 彼は心の中で言う。「神は忘れてる。顔を隠している。彼は決して見はしないのだ。」 10:12 【主】よ。立ち上がってください。神よ。御手を上げてください。どうか、貧しい者を、忘れないでください。 10:13 なぜ、悪者は、神を侮るのでしょうか。彼は心の中で、あなたは追い求めないと言っています。 10:14 あなたは、見ておられました。害毒と苦痛を。彼らを御手の中に収めるためにじっと見つめておられました。不幸な人は、あなたに身をゆだねます。あなたはみなしごを助ける方でした。 10:15 悪者と、よこしまな者の腕を折り、その悪を捜し求めて一つも残らぬようにしてください。 10:16 【主】は世々限りなく王である。国々は、主の地から滅びうせた。 10:17 【主】よ。あなたは貧しい者の願いを聞いてくださいました。あなたは彼らの心を強くしてくださいます。耳を傾けて、 10:18 みなしごと、しいたげられた者をかばってくださいます。地から生まれた人間がもはや、脅かすことができないように。

はじめに

今日は、詩篇 9 篇と 10 篇をまとめて学びますが、それにはいくつか理由があります。ギリシャ語とラテン語の聖書では、このふたつの詩篇はひとつにまとめられていました。

また、ヘブル語を読むとわかりますが、この詩篇には、折句（おりく）という技法が使われています。

つまり、これらの詩篇では改行するごとに、行頭でヘブル語のアルファベットが順番に使われているのです。

ヘブル語のアルファベットは 22 文字で、詩篇 9 篇 1 節は、アルファベットの A に相当する文字から始まります。

そして、2 節は B に相当する文字から始まります。

詩篇 9 篇には、ヘブル語アルファベットの前半が使われ、詩篇 10 篇にはその後半が使われています。

ですから、ヘブル語を話すユダヤ人にとって、このふたつの詩篇を切り離すのはとても不自然なのです。

詩篇 9 篇 10 篇は、ふたつでひとつの詩篇として完璧な流れを作り出します。

このふたつの詩篇で一貫して教えられているテーマは神の裁きが確実であることです。

私たちが生きる現代社会は、貧しい人やしいたげられた人々に対する正義などないように思えます。

北朝鮮では、50 万人を超えるクリスチャンが強制収容所に入れられていて、多くは餓死します。

イエスに従う者として生きることが危険な国が、世界中に 50 もあります。

イエスの弟子として生きるために苦しむ現代の人々に対して、神のみことばは何を語ってくれるのでしょうか。

その答えは、神は今も天の御座で納めておられ、個人も国も裁かれる、というものです。

神の裁きの御業は、今すでに実行されています。そして将来には、御子イエス・キリストをとおして裁きが下されます。

パウロは使徒 17 : 31 で、神がイエス・キリストによる義をもってこの世界をさばく日を決めておられると教えます。

ヘブル 9 : 27 は、人には一度死ぬことと、死後に裁きを受けることが決まっていると語ります。

現時点で、神の裁きを免れているように見える人がいたとしても、死後の神の裁きを逃れられる人はいません。

これから詩篇 9 篇 10 篇をともに学びますが、詩篇の著者ダビデが私たちに教えようとしている神の裁きに関する事柄に注目していきたいと思えます。

では学びに入る前に、詩篇 9 篇 1-2 節にまず注目しましょう。

この個所で、ダビデは神をたたえています。それは、彼自身が神の裁きを恐れていないからです。

ダビデは神のみこころにかなった人でした。彼は、神の愛と守りと赦しを知っていました。

現在でも、聖書の神を恐れる必要のある人は、イエス・キリストをとおして神と直接出会っていない人です。

では、詩篇 9 篇 10 篇から神の裁きについてダビデが教えてくれる事柄のひとつめを見ていきましょう。

1. 詩篇 9 篇と 10 篇は、神の裁きの約束について教えてくれる。(9 : 9-12、10 : 17-18)

神は聖書で約束しておられる事柄を、神のときに必ず実行されると確信できるのはすばらしいことです。

この詩篇でも、ご自身の民の苦しむ声を神はお忘れにならないと、ダビデは確信していました。

出エジプト 3 : 7-8

3:7 【主】は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。

3:8 わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。

神は、ご自身の民をエジプトでの苦境から救い出すと約束されました。そして、モーセを用い、エジプトの神々を裁くことによって、見事に救い出してくださいました。

神はこのとき、10の災いを送られました。

神は裁きの中で、ご自身の民のために戦われました。

詩篇9：10でダビデは、神に信頼を置く者を神はお見捨てにならないと語ります。

詩篇10：17-18では、神が弱者に正義をもたらしてくださるとダビデは励まします。

この個所ではとくに、みなしごとしいたげられた者が挙げられています。

神は、社会の中で声を上げられない人々のために、裁きをとおして語られます。

では、現代の世の中で、神はみなしごやしいたげられた人、迫害を受けているクリスチャンのためにどのような形で働き、正義と裁きをもたらしてくださるのでしょうか。

短く言えば、たいいていの場合、私たちのような人を用いて働かれます。

私たちは教会としてしいたげられた人や貧しい人たちのために多くはできないと思うかもしれませんが、OICでは特別献金を募ります。

教会役員は、慈善活動に役立ててもらえるところにその特別献金を送るよう努めています。

金銭的な支援をすることで、私たちは、神がしいたげられた人々の備えをなさる働きの一端を担います。

次の特別献金は、9月16日に募ります。送り先は、ベツレヘムにある「希望の家」です。

この働きは、ベツレヘム周辺に暮らす目の見えない人や障害のある子どもたちに希望と助けの手を差し伸べるクリスチャンの働きです。

9月には、この働きについて少し皆さんにお話します。そうすることで、私たちの献金がどんなところでどういうふうに使われるかわかるからです。

私を知る大きなキリスト教団体に、国際キリスト教教育機関オープンドアとキリスト者援助団体バルナバス・ファンドがあります。

どちらも団体創設者にお会いしたことがあります。神は世界中で迫害されているクリスチャンについての認識を高めるためにこれらの団体を用いておられます。

このふたつの団体をとおして送られた多額の献金が、世界中のクリスチャンを助けてきました。他にも世界中には神の御手の器として働く多くの団体があります。

しいたげられ、神の助けを求める人々のために神がどのように働いて助けてくださったかという多くの証をここで紹介する時間はありませんが、神は聖書で約束されたとおりに、今も働いておられます。

神は、悪を行う人々への裁きと、迫害されしいたげられた人々への助けとの両面で働いておられます。

2. 詩篇9篇と10篇は、神の裁きの力強さについて教えてくれる。(9：5-6、13-14、10：16)

詩篇9：5-6

9:5 あなたは国々をお叱りになり、悪者を滅ぼし、彼らの名を、とこしえに、消し去られました。9:6 敵は、絶え果てて永遠の廃墟。あなたが根こぎにされた町々、その記憶さえ、消えうせました。

神は、神の民に敵対する国に裁きをもたらせるほど力強いお方です。

また、邪悪な人を破滅させ、神のご計画に逆らう町や団体ごと滅ぼせるほど力強いお方です。

創世記19章には、ソドムとゴモラの町に神の裁きがかされた話が記されています。神は、町の人々の罪深い行いを憂い、ふたつの町を滅ぼされました。

そこで挙げられている罪のひとつは、性的倒錯、現代では「ゲイ」と呼ばれるものです。

神は、このふたつの町における性的倒錯を悲しまれました。けれども、町を滅ぼす前にまずふたりの御使いを遣わし、ロトとその家族を救われました。

レビ記18：22

18:22 あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである。

レビ記 20 : 13

20:13 男がもし、女と寝るように男と寝るなら、ふたりは忌みきらうべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。

現在、米国では人口の 25% もの人々が性的倒錯を実行していると報告されています。

英国でも、50 年前は男性同士の性交は違法行為でした。

残念ながら、今では多くの人が同性愛を支持しており、反対の声は上げにくく、反対すれば周囲から批判されるようになりました。

世界 195 か国中、同性婚が今も違法とされている国は 74 か国のみとなりました。

神がこの罪を嫌い、それを忌み嫌うべきものと呼ばれるなら、この罪のために神が裁きを下される日は遠くないでしょう。

黙示録に記されたイエス・キリストの再臨と裁きは、遠い将来のことではありません。

テサロニケ第二 2 : 3 は、イエスの再臨される前に神と神のみことばに対する大きな抵抗があると教えます。

私たちはまさに、そのような時代に生きています。

けれども、私たちの務めは、神の恵みの福音を携えて、人々を助けることです。

神に近づき、罪を知れば知るほど、罪にまみれたこの世に生きるのが嫌になります。

13-14 節でダビデは、死の門からダビデを引き上げてシオンの娘の門に置いてくださった神のあわれみを証しています。

これは、ダビデの「救い」を指しています。

彼は神の証人となるために、神の裁きから救い出されました。

このダビデの発言と関連する新約聖書の個所はコロサイ 1 : 13 にあります。

コロサイ 1 : 13

1:13 神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

クリスチャンは、すでに神の裁きから救い出されています。

イエス・キリストは、私たちの罪の罰を追ってくださいました。

私たちの罪はすでに神に裁かれました。ですから、私たちが神の御怒りを受けることはありません。

永遠の有罪判決からすでに解放されたのです。

これは、神の恵みの福音というすばらしいメッセージです。

私たちは罪人ですから、神から罰を受けるべき者です。

けれども、イエス・キリストを信じたとき、私たちは地獄と、神がくだされる罪の罰から救い出されました。

3. 詩篇 9 篇と 10 篇における神の裁きの逆説 (9 : 12、10 : 1、5、10、11)

神は、私たちが考えるように裁かれるとは限りません。

神は裁きにおいても主権者であられます。

神が裁かれるときや待たれるときをお決めになりますが、私たちにはそれを理解できないことがあります。

詩篇 10 : 1

10:1 【主】よ。なぜ、あなたは遠く離れてお立ちなのですか。苦しみのときに、なぜ、身を隠されるのですか。

ダビデは、10年間も逃亡生活を送っていました。神がサウル王に裁きを下してくださるのを10年も待っていました。ダビデにとってはずいぶん長い時間がかかっていると感じたでしょうが、神にとっては、ダビデの信仰と人格を強める機会でした。

詩篇 10 : 5 でダビデは、神の裁きは高いと語ります。

ダビデは、神の道をすべて理解していたわけではありませんが、神がすべてを分かったうえでダビデの人生に働いておられると信頼していました。

これは、現代の私たちにとっても大切なことです。

私たちはイエス・キリストを信じたときに神の子となります。

神は私たちを愛し、面倒を見、必要に応じてすべてを備えてくださいます。

私たちが苦しみや困難に遭うとき、そこには常に神の崇高な目的があります。

ヤコブ 1 : 3-4

1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。 1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

ヤコブがここで伝えようとしているのは、苦しみが敬虔な人格をはぐくむということです。その敬虔な人格を、神がご自身のみこころのために用いてくださいます。

苦しみに遭うと、私たちは神に頼らざるを得なくなります。自力で試練に立ち向かえる力も手段もないからです。

アメリカの有名な巡回伝道者ヴァンス・ハフナーは次のように語りました。

「神は砕かれたものを用いられる。収穫をもたらすのは砕かれた土。雨をもたらすのは砕かれた雲。パンをもたらすのは砕かれた穀物。力をもたらすのは砕かれたパンである。砕かれた石膏つぼから出てきたのがかぐわしい香油。そしてペテロは激しく泣いた後、さらに偉大な力を得たのである。」

スコットランドの神学者イアン・マクラレンは言いました。

「クリスチャンの最大の喜びは、ほぼ常に苦しみをとおしてやってくる。パラダイスに咲く花は皆、ゲツセマネから移植されたのである。」

ダビデは、苦勞をとおして恵みによる成長を遂げられると心得ていました。

私たちも苦勞するとき、未来の祝福のために神が投資しておられるのです。

4. 詩篇 9 篇と 10 篇は、神の裁きの原理について教えてくれる。(9 : 15-16、10 : 15)

詩篇 9 : 15-16

9:15 国々はおのれの作った穴に陥り、おのれの隠した網に、わが足をとられる。

9:16 【主】はご自身を知らせ、さばきを行われた。悪者はおのれの手で作ったわなにかかった。ヒガヨン セラ

16 節の最後に、「ヒガヨン セラ」とあります。

これは、ヘブル語の単語です。

この単語は、しばし立ち止まって、そのみことばについて考えるよう促します。

ダビデは、悪い人々や悪い国々のありさまについて考えるよう促しています。

そして、邪悪な者はいずれ自らの行いがわざわざいとなると語ります。

ガラテヤ 6 : 7-8

6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。 6:8 自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

ダビデは、悪事の影響は徐々に悪事を働いた人に現れると言います。最初はうまくいったかのように見えても、最終的には、悪事を働いた人は自らの行いの悪影響に悩まされることになります。

聖書の神とそのみことばに逆らうと、その行き着く先は必ず、決して心の満たされない人生です。

神は、ご自身の造られた秩序とかたちの中で私たちが人生を楽しみ喜ぶことを望んでおられます。

その秩序に逆らい、自分勝手なルールや基準を作るなら、私たちは決して満たされません。英国だけでも、現在 3,000 組の同性婚カップルが養子縁組をしています。そのほとんどが、乳児を養子に迎えています。

その 3,000 人の子どもたちの人生はどんなものになるのでしょうか。

将来の思考パターンが形成される幼少期に、どんな影響を受けるのでしょうか。

神のみことばは、このような子どもたちが、親の性的倒錯によって「わなにかかった」と語ります。

しかし、その子どもたちも福音の力によって救われる可能性があることは感謝すべきです。

私たちにできるのは、いつの日かその子どもたちが聖霊をとおしてイエス・キリストによって救われるようにと祈ることだけです。

では、詩篇 9 篇 10 篇の適用、つまり私たちに当てはめられる教えをふたつお話します。

1. 私たちに対する神の裁きは 100% 確実である。

まだクリスチャンでない人は、罪に対する神の裁きを免れることはできません。

ですから、すべての人にイエス・キリストを知ってほしいと神が望まれていることを知る必要があります。

ペテロ第二 3 : 9

3:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

神は待っておられるのです。あなたがイエスのもとに来て、罪を悔い改めるのを待っておられます。

黙示録 3 : 20

3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

もし神が自分の心の扉をたたいておられる、と感じたなら、どうか神に対して心を閉ざさないでください。

イエスによって罪の赦しを神に求めましょう。

イエスは、私たちの罪の罰を受けるために、死んでくださいました。ですから、あなたは今日、救われることができます。

けれども、それにはあなた自身がイエスのもとに踏み出さなければなりません。

クリスチャンの人は、毎日の生活で裁きがくだされています。

信徒として、日常の多くの罪を悔い改めなければなりません。それは、永遠の救いを得るためではなく、イエスとの交わりとキリストにある信徒同士の交わりを深めるためです。

この裁きは、永遠の行き先を左右するものではありません。生き方を改めるため、そして、将来天国で受ける報いのためです。

コリント第一 3 : 8-16

3:8 植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。 3:9 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。 3:10 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。 3:11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。 3:12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、 3:13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。 3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。 3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。 3:16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

恵みにおいて成長し、イエスとの交わりを深めていっている人は、頻繁に悔い改めます。そして、神との歩みを阻害するものを取り去ってくださるように、聖霊に祈り求めます。

2. 私たちに対する神の恵みは 100%確実である。

聖書でダビデの人生について読んだことがあれば、ダビデも過ちを犯したことがあるとわかるでしょう。彼は完璧な人ではありませんでしたが、神がイエス・キリストによってダビデにあわれみを示してくださいました。

その結果、ダビデは自分の人生に注がれた神の恵みを悟りました。

神は、ダビデの人生を用いて、ご自身の選ばれた民のためにみこころをなそうとしておられました。

神は、私たちクリスチャン信徒にも、自分たちの人生に注がれた神の恵みを知ってほしいと望まれます。神の恵みを悟った人は、未信者に神の恵みを施すことができます。

神に何かをしていただく資格は自分に一切ないと自覚すると、「恵み」という言葉の意味を理解する助けになります。

神の恵みとは、受けるにふさわしくない好意や親切をイエスのおかげで神からいただくことです。

私たちが神の目に尊い存在なのは、ひとえにイエスのおかげです。

私たちが復活し、天国で永遠に過ごせるのも、ただイエスのおかげです。

聖書は、神の目には私たちの義はみな不潔な着物のようだと言います。

私たちのほうから神に提供できるものは何もありません。ただ神からすべて受けるばかりです。そして、神から受けられるのも、イエスのおかげです。

私たちが神の恵みをしっかりと理解すれば、クリスチャンの兄弟姉妹のことも、ノンクリスチャンのことも、今までと違ったかたちで愛することができるでしょう。

恵みによる救いをしっかりと理解すれば、イエスをまだ知らない失われた人たちに伝道する最大のモチベーションを与えてくれるでしょう。

神に助けていただいて、私たちが神の恵みを深く知ることができますように。